

50周年特別企画報告

中谷 敏

(大阪大学大学院医学系研究科)

日本超音波医学会の歴史は、1961年10月21日京都において開催された電気関係学会関西支部連合大会におけるシンポジウム「最近における超音波の医学的応用」(座長：加藤金正先生)をきっかけに、青柳健次、加藤金正、武田義章、吉岡勝哉、吉田常雄の諸先生方が立ち上げられた超音波医学研究会に遡ることができる。最初の参加者は27名であったという。その翌年、4月には会員総数209名を掲載した会員名簿を発行し、5月には順天堂大学医学部講堂を会場として早くも第一回超音波医学研究会を開催、さらにその翌年1963年には英文のproceedingsを発行している。なんという素早さ、activityの高さであろう。新しいものを自分たちが育てていくのだという意気込みがうかがえるようである。以後、日本超音波医学会はM(medicine)側とE(engineering)側の双方が参加して、超音波の医学的応用という共通テーマについてディスカッションを行うという世界にも例をみない学会として発展してきた。

森安史典大会長(東京医科大学)の下に第85回学術集会在開催された2012年は、日本超音波医学会設立50周年にあたるということで幾つかの記念事業が行われた。私は日本超音波医学会50周年特別企画小委員会副委員長として増山理委員長(兵庫医科大学)の下、そのお手伝いをさせていただいた。以下にその経験を記す。

私が関与させていただいた企画は、①50周年記念年表の作成、②一時代を画した超音波機器の展示、③50周年記念教育講演およびシンポジウムの構成、の3つであった。①は、超音波の各領

域にまたがってデータを集めなければならず、特別企画小委員会委員の方々にご協力いただいた。各領域の先生方からお寄せいただいた年ごとのイベントを、新奇性や重要性など共通の視点に立って取捨選択し、また複数の領域にまたがっているイベントを整理するなどして、最終的には事務局関連、基礎・装置開発関連、臨床分野(循環器領域、産婦人科領域、腹部領域、体表・頭部領域の4分野からなる)の三分野170項目を掲載した。できあがった年表は縦2.7m、横4.5mの大きなパネルとして会場の50周年特別コーナーに展示された。年表作成にあたって数々のイベントを眺めていると、今となってはあたりまえとなっているような技術が、実は先人達が世界との競争に打ち勝って苦勞の末に産み出してきたということをあらためて実感することができた。

②は、エポックメイキングな機器を展示して、超音波医学の進歩を実感していただくべく企画された。多くの企業が古い機器を廃棄しているということから、当初は実現が危ぶまれたが、幸い幾つかの企業から提供申し出をいただくことができた。開発当時のインパクトの強さや、現在への発展につながる意義などの点から、携帯形超音波診断装置SSD-2B(1960年、アロカ社(現 日立アロカメディカル社)製)、リニア電子走査形超音波診断装置試作1号機(1976年、東芝総合研究所、竹原靖明先生(関東中央病院))、世界初のカラーDブラ装置SSD-880(1983年、アロカ社(現 日立アロカメディカル社)製)、世界初の超音波エラストグラフィ装置EUB-6500プロトタイ

ブ（2003年、椎名毅先生（当時 筑波大学）、日立メディコ社（現 日立アロカメディカル社）製の4機器を展示した。いずれも若い先生方には興味津々、年配の先生方には懐かしさを持って見られていたようであった。

③は、教育講演とシンポジウムの二部からなること、および演者の先生の選定等について理事会で承認された後、比較的順調に準備が進み、5月26日に開催された。前半の教育講演「超音波医学 過去・現在・未来」では昭和大学の岡井崇先生の座長の下、茨城県済生会常陸大宮済生会病院の伊東紘一先生が「過去から現在への発展、将来への期待」について、次いで京都大学の椎名毅先生が「現在の最新技術と今後の展望」について講演された。後半の「今後の超音波医学の発展のために」と題されたシンポジウムでは、香川医科大学の千田彰一先生が座長を務められ、国立大学財務・経営センター理事（前 文部科学省高等教育局）の玉上晃氏から基調講演をいただいた後に、パネリストとして近畿大学の工藤正俊先生、前出の椎名毅先生、東京大学の竹中克先生が参加され、超音波医学の現状、教育システムの問題点、将来への展望などについて会場を巻き込んだのディスカッションが行われた。文部科学省からの視点を知ることができ、たいへんに有意義なシンポジウムであった。

日本超音波医学会50周年特別企画を実施するにあたって、多くの人々にお世話になりました。年表を作るにあたっては、日本超音波医学会事務局および特別企画小委員会委員の方々に多大なご協力をいただきました。また機器展示においては、各企業の担当者の方、関東中央病院の関係者のご協力をいただきました。教育講演、シンポジウムの演者、座長、パネリストの先生方には有意義なセッションにいただきました。またシンポジウム基調講演演者選定にあたっては千田彰一先生のご尽力をいただきました。この場を借りて皆様にご礼を申し上げます。

